

「Ohne Titel (無題)」

基礎教育 田中康二郎 Kojiro Tanaka



『創造 が豊かであること』

創造性とは「まれなあるいは普通ではないが、適切な反応が生起すること。」というのがジンバルドー (P.G.Zimbardo) の創造性の定義である。即ち他の人たちが気付かない世界に対する感受性の鋭さ、非言語的な視覚的イメージの生成の能力を、創造的人間は持つ。そして、これらを実質的に作品として造りあげる事ができる人を美術家あるいは作家というのであり『創造性が豊かであること』といえる。

創造性はギルフォード (J.P.Guilford) のいう*拡散的思考に関係しており、学術的業績や社会的業績は知能よりむしろ創造性と密接に関係しているのである。何事にも一定の知能は当然必要であろうが、高知能者が創造性も高いとは必ずしも言えないのである。

*拡散的思考とは与えられた情報からさまざまな新しい情報をつくり出して問題解決にいたる場面で要求される思考活動であり、ありふれたものではないユニークな解答を目指して、様々な方向へ思考する活動をいう。

この2作品は、形態の崩壊と蘇生をイメージしたものである。



1979年東京芸術大学大学院美術研究科終了、同大学非常勤講師を経て83年ドイツ政府給費留学、86年帰国し、慶應義塾高校に教諭として勤務後98年文部省教科書調査官就任、2015年東京工芸大学教授就任。石材を中心に彫刻制作を行い、国内外の彫刻シンポジウムに参加。個展、グループ展を中心に発表活動を行う。



Ohne Titel '07-Nr.1 黒御影石、真鍮 48×33×52cm



Ohne Titel '06 - Nr.1 黒御影石、銅 25×50×33cm